

幼児の個人差と保育者の対応について

高濱裕子

無藤 隆

(お茶の水女子大学家政学研究科研究生) (お茶の水女子大学生活科学部)

【問 題】

幼児の個人差によって、保育者の対応の異なることが明らかにされている。しかしこれらの調査は質問紙法によるため、①実際の保育者と幼児の相互交渉をどれだけ反映しているか、②幼児の発達による変化や状況要因などをとらえているか、という問題を含む。本研究では、2名の保育者とそれぞれの担任するタイプの異なる2名の幼児の相互交渉を縦断的に観察し、幼児の個人差と保育者の対応について発達の検討を行う。

【方 法】

対象 2名の保育者と4名の2年保育5歳児。対象児の抽出は担任の保育者と協議の上で行い、保育者の判断の信頼性を確認するために「教師による幼児の行動評定尺度」(柏木, 1988)を実施した。1991年度における保育経験年数は、A教諭が20年、K教諭が19年であった。

観察方法 観察時間は、自由遊びの開始から終了までとした。対象児の発話を含む行動、対象児を含む2名以上の幼児の相互交渉、対象児と担任保育者との相互交渉に留意して、筆記記録した。保育者にはマイクをつけ、小型のテープレコーダーに音声を録音した。保育者に対する事前の教示は行わず、保育終了後にインタビューを行った。

分析方法 観察記録と音声記録からプロトコルを作成し、プロトコルに基づいて分析を行った。

【結果と考察】

1 幼児の接近行動と保育者の関与行動

表1 幼児から保育者への接近行動

時期	9月	11月	2月	合計
A教諭				
M江<主張>	24 (9.58)	17 (13.88)	17 (10.41)	58 (11.09分/回)
Y輔<抑制>	4 (61.25)	11 (23.37)	30 (8.00)	45 (16.49分/回)
K教諭				
F也<主張>	15 (16.00)	13 (20.00)	18 (12.83)	46 (15.89分/回)
A奈<抑制>	14 (16.50)	17 (12.35)	24 (9.38)	55 (12.11分/回)

①接近行動の全体平均には、タイプによる個人差よりも、性差が認められる。発達的变化は抑制タイプで認められ、時期を追って保育者への接近が頻繁になる傾向がある。

②関与行動の頻度は、いずれの保育者でも主張タ

表2 保育者の関与行動

時期	9月	11月	2月	合計
A教諭				
M江<主張>	5 (46.00)	16 (14.75)	3 (59.00)	24 (26.79分/回)
Y輔<抑制>	15 (16.33)	17 (15.12)	17 (14.12)	49 (16.14分/回)
K教諭				
F也<主張>	10 (24.00)	13 (20.00)	14 (16.50)	37 (19.76分/回)
A奈<抑制>	28 (8.25)	25 (8.40)	26 (8.65)	79 (8.43分/回)

イプより抑制タイプで高い傾向が認められる。つまり、抑制タイプに頻繁に働きかけている。またA教諭よりK教諭が対象児に頻繁に関与している。

2 幼児の接近行動と保育者の関与行動の内容

①接近行動の顕著な変化は、抑制タイプの意思表示・意見の出現(11月)に認められる。

②保育者は、幼児の枠組みに沿った働きかけと保育者の枠組みに沿った働きかけを用いている。主張タイプでは保育者の枠組みの方が、抑制タイプでは幼児の枠組みの方がより多い傾向にある。

表3 幼児の接近行動の内容

時期	9月	11月	2月	9月	11月	2月
A教諭						
表明	M江<主張>			Y輔<抑制>		
意思表示・意見	5 (20.83)	1 (5.88)	6 (35.29)	3 (75.00)	5 (45.45)	11 (36.67)
要請	5 (20.83)	9 (52.94)	5 (29.41)	0	1 (9.09)	7 (23.33)
許可・確認	6 (25.00)	6 (35.29)	5 (29.41)	1 (25.00)	5 (45.45)	11 (36.67)
情報	4 (16.67)	1 (5.88)	0	0	0	0
合計	24 (%)	17	17	4	11	30
K教諭						
表明	F也<主張>			A奈<抑制>		
意思表示・意見	9 (60.00)	4 (30.77)	1 (5.56)	6 (42.86)	1 (5.88)	9 (37.50)
要請	2 (13.33)	5 (38.46)	7 (38.89)	0	9 (52.94)	6 (25.00)
許可・確認	3 (20.00)	4 (30.77)	8 (44.44)	7 (50.00)	3 (17.65)	5 (20.83)
情報	0	0	1 (5.56)	0	1 (5.88)	1 (4.17)
合計	15 (%)	13	18	14	17	24

表4 保育者の関与行動の内容

時期	9月	11月	2月	9月	11月	2月
A教諭						
表明	M江<主張>			Y輔<抑制>		
Cの意図	4 (80.00)	7 (41.18)	1 (33.33)	5 (33.33)	9 (52.94)	10 (58.82)
仲間の意図	0	3 (17.65)	1 (33.33)	3 (20.00)	3 (17.65)	2 (11.76)
Cの枠組み	0	2 (11.76)	0	4 (26.67)	2 (11.76)	3 (17.65)
Tの枠組み	1 (20.00)	5 (29.41)	1 (33.33)	2 (13.33)	0	2 (11.76)
その他	0	0	0	1 (6.67)	3 (17.65)	0
合計	5 (%)	17	3	15	17	17
K教諭						
表明	F也<主張>			A奈<抑制>		
Cの意図	4 (40.00)	7 (53.85)	5 (35.71)	13 (46.43)	16 (61.54)	12 (46.15)
仲間の意図	0	1 (7.69)	3 (21.43)	3 (10.71)	1 (3.85)	1 (3.85)
Cの枠組み	1 (10.00)	2 (15.38)	1 (7.14)	7 (25.00)	5 (19.23)	9 (34.62)
Tの枠組み	5 (50.00)	3 (23.08)	5 (35.71)	5 (17.86)	4 (15.38)	4 (15.38)
その他	0	0	0	0	0	0
合計	10 (%)	13	14	28	26	26

注: M江とA奈の11月にダブルカウントあり。